

迫る2024年問題 物流業界の課題

≡ トラック懇話会・近畿 ≡

5月27日(土)、中央区の道頓堀ホテルにて、2023トラックセミナー(第15回)を参加者78名で開催し、講演には、橋本愛喜さん(フリーライター)をお呼びしました。橋本さんはYahooニュースピックや全国で運送業界の問題点を訴えています。

2024年問題で行政と現場の温度差があり現場の実態との乖離を指摘しています。各メディアが宅配便の問題に焦点を当てて報道していることや、一部のトラックドライバーの労働環境に関する問題が取り上げられ、課題を宅配業者に限定したような報道の問題点も指摘しました。



また、女性のトラックドライバーの参加を推進しながらも、女性が安心して働ける職場環境が整っていない現実も指摘しました。さらに、高速道路の深夜割引制度に関しても言及されており、深夜割引を狙って時間調整するトラックによる渋滞が運転手の長時間労働の一因となっていることが問題視され、トラック運転手の労働環境の改善を目指す取り組みが急務です。これまでトラックドライバーが

直面する問題や現場の声が上がりにくい構造で、先送りされてきた労働条件や給料体系の問題、企業間の競争による運賃の低下などが、トラックドライバーの労働環境に大きな影響を与えています。このような現状に対して、橋本さんは現場の声が反映されにくい状況を危惧し、現場の意見や考えを行政に届けることの重要性を訴えています。私たちトラック懇話会も各企業や労働者の声を行政に訴えるために6月5日、国土交通省へ要請に行きました。

トラック協会でも発言がありましたが、現場の問題をメディアやSNSで拡散して消費者に労働環境、人手不足で物流の停滞を理解

してもらうことが重要であり、それによって行政や企業が改善策を講じる契機となることが強調されました。

参加者に対しては、物流業界の実態や現場の問題について正確な情報を持つことの重要性が訴えられ、また、現場の声が行政や企業に届くためには、関心を持ち、議論や取り組みに参加することを求められました。行政や企業、一般の人びとが協力し、物流業界における労働環境の改善や社会的な課題の解決に取り組まなければ、2024年問題で運送事業者の撤退、労働者の離職が増加することが懸念されます。

わたしたちは物流業界全体の健全な発展とトラックドライバーの働きやすい環境の確保のために継続した取り組みを進めていきます。(執行部 南野一樹)

国土交通省へ要請強化!

トラック産業の将来を考える懇話会・近畿の幹事12名で、6月5日午後から国土交通省へ申入れ要請を実施しました。

要請として、2024年4月1日以降にトラックドライバーの時間外労働時間の上限が年960時間に制限されることにより発生する諸問題として、標準的な運賃を収受すること、燃料高騰対策の強化、トラック産業の多重構造、ダンピング問題、高速料金の割引時間変更問題の要請を行いました。

国土交通省貨物課課長補佐の武藤裕さんは、「貨物自動車運送事業法改正法附属第1条の2に基づく荷主への働きかけについては、国土交通省でも相談窓口を設けて

おり、買い叩きなどの不当な強要を行う荷主に対して厳選に向けた働きかけを強化しています。令和5年5月末、国土交通省においては82件の働きかけと4件の要請を実施しております。働きかけのうち、中小企業庁と連携し下請中小企業振興法に基づき指導助言を実施した事例もあります」と回答されました。

標準的な運賃の時限立法は恒久的に延長されましたが、まだまだ荷主の認知度、理解が3割程度しかなく行政の広報や事業者のさらなる努力が求められます。物価高騰の終わりが見えず、賃金に係る重要な運賃を引き上げる制度要求を訴えていきます。



大和運輸(株)は誠実な団交をおこなえ!

●労働者の声を聞かない大和運輸 5月26日の抗議行動で60名を超える仲間が結集し、大和運輸本社で1時間の抗議と中谷常務を通じ栗林社長に団体交渉の申し入れをおこないました。

中谷常務は「会社で協議して決定している」と言いながらも、こちらの追及に対し「会社の想定を超えるものに関しては自己判断で返事をする」など、当初の言い分を自分自身で否定しました。これまで私たちに発言してたことは何だったのか、今なお不誠実な対応が続いています。



●栗林社長の不誠実 その後日、私たちが会社に抗議していた際、偶然にも栗林社長が東京より来阪していたため、「申入書を手渡したい」と要求し

ましたが、中谷常務は「その必要はありません」と一蹴されました。



私たちは、会議室にこもった栗林社長に直訴しましたが、栗林社長は、「誰が受け取っても一緒にしょ」と申入書の直接受け取りすら拒否しました。

私たちから「自分の会社で苦しんでいる社員がいるのに、その声すら聞かないのか」と質問しても、明確な回答をしません。1時間ほど直談判をおこないましたが、最後まで椅子から立ち上がることもなく、足を組んだままの対応でした。この態度こそが、この問題に取り組む会社の姿勢そのものだと感じました。

●責任転嫁する社長 しかも、栗林社長は私たちにに対し「問題解決がなされないのは

会社の責任ではなく、自分たちの考えを押し付けるあなたがたに問題がある」と、仰天する発言がありました。問題に真摯に向き合わない大和運輸に対し、今後も私たちは声をあげ闘うことを決意しました。



5月から連日、街宣行動などを続けていますが、会社の不誠実な対応は全く変わりません。集団交渉には、決定権のない代理人が出てきますが、問題解決しない態度で折り合いをつける気持ちもありません。私たちは、仲間を守るために大和運輸に対して抗議行動は継続していきますので、ご協力をお願いします。

(執行部 佐久原 智彦)